

英語で行う授業において、不安を抑えて学習意欲を高める指導法の研究
～日本語での支援を活用した、学習不安を抑える指導を通して～

福島県立福島西高等学校 教諭 佐藤 直美

1 研究の趣旨

高等学校学習指導要領外国語編において「生徒が英語に触れる機会を充実するとともに、実際のコミュニケーションの場面とするため、授業は英語で行うことを基本とする。」と示され、その取り組みが進められている。そこで、本研究では、英語で行われる授業への転換が生徒の情意面に影響を与える可能性を想定し、学習者の不安を抑え、意欲を向上させるため、以下に述べるような仮説を設定し、本主題に迫った。

英語で行う授業において、生徒の不安の実態を教師が理解し、効果的に日本語で支援する場面を設定した指導を行えば、生徒の不安は抑えられ、学習意欲を向上させることができるであろう。

2 研究の概要

- (1) 英語授業における生徒の不安要因の実態調査及び「英語で行う授業」に対する教員の意識調査
 - ① 研究協力校第2学年の生徒を対象に、英語授業における不安要因の調査を行った。
 - ② 県内の高校の英語科教員50名にアンケートを実施し、「英語で行う授業」を支えるための条件や支援内容についての調査を行った。
- (2) 「英語で行う授業」において日本語での支援場面を設定した検証授業の実施
 - ① 「英語で行う授業」を受ける時、生徒の不安や意欲はどのように変化するかを調査するための検証授業を行った。
 - ② ①の検証授業の結果を受けて日本語で効果的に支援する場面を設定し、検証授業を実施した。

3 成果と今後の課題

- (1) 教師と生徒の双方向コミュニケーションの中で、生徒の理解を確認しながら援助を行えば、日本語の支援がより有効に働き、生徒の不安を抑え、学習意欲を向上させることが分かった。
- (2) 生徒が英語に触れる機会を保障しながら、日本語での支援は「補助的」にのみ活用することで、生徒の集中力は高められ、より意欲を向上させることができることが分かった。
- (3) 今後の課題

本研究においては、教師ができるだけ授業を英語で行い、「生徒が英語に触れる機会を増やすこと」の中で生徒の不安を抑え、生徒の学習意欲を向上させることは達成できた。今後は授業を生徒中心のコミュニケーション活動の場へ高めていく工夫をさらに進めていきながら、それに伴う生徒の多様な心理面への影響について追求していく必要があると考える。そのためにも、教員と生徒が共有できる「日本語」を重要なツールとして、更なる有効活用法を考えていきたい。